

再発見!ふるさとの山城 岡山県中世城館跡総合調査

# 攻略!おかやまの中世城館

第二巻(備前国西部編)



岡山城跡(岡山市北区丸の内)  
※現在の天守は戦後の再建

## 備前国西部の中世城館に迫る!

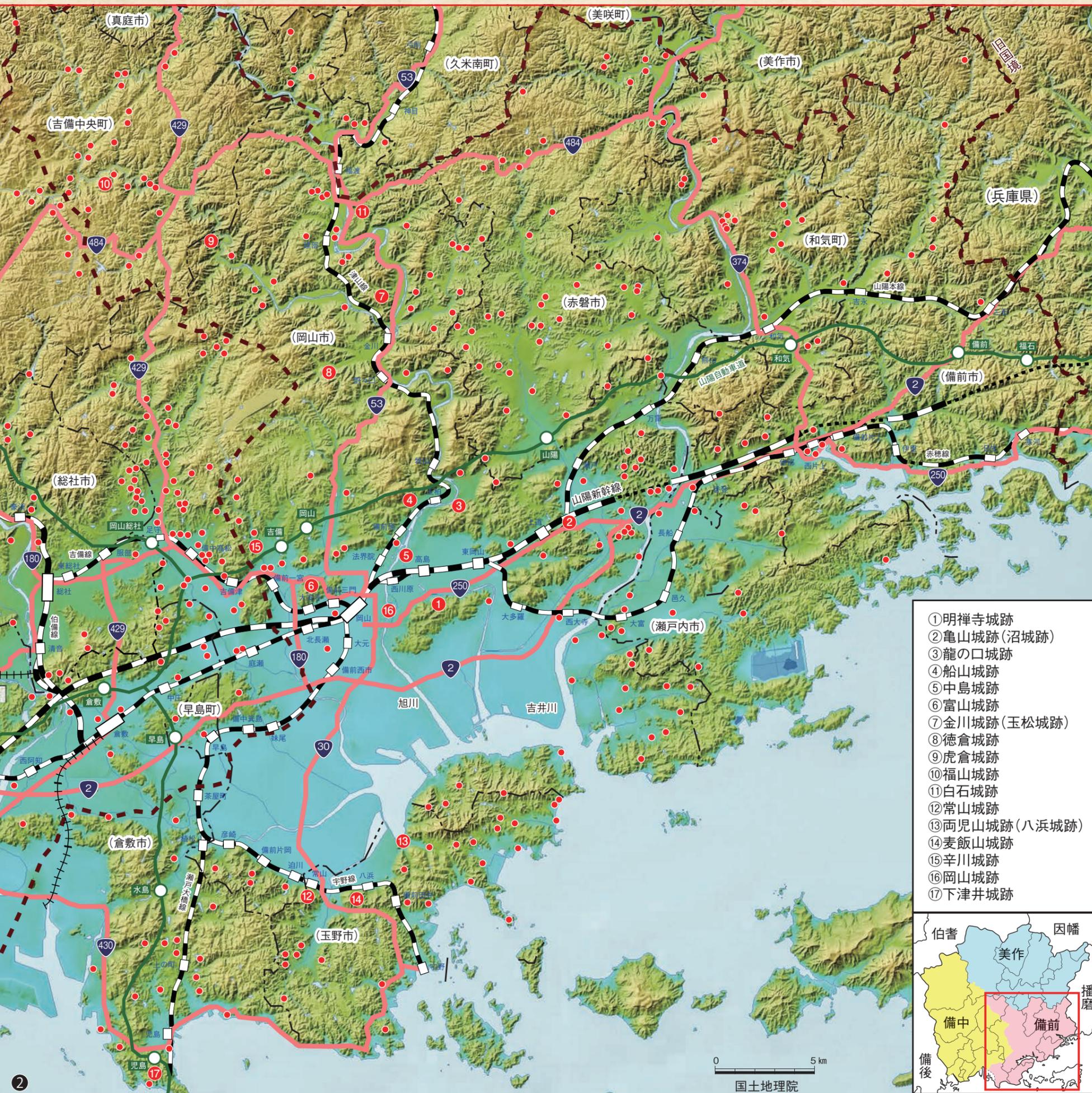
岡山県には、中世(平安時代末から安土桃山時代)に築かれた城や館の跡が、伝承地も含めると約1,400か所知られています。

岡山県の南東部にあたる備前では、室町時代に赤松氏が長く守護をつとめました。16世紀前半には守護代の浦上氏が赤松氏を追って実権を握りました。その後、浦上氏は山陰から侵攻した尼子氏を退け、備前、美作、播磨の一部に対する支配を強めていきます。しかし、浦上家臣の宇喜多氏は、明禅寺合戦で備中勢を打ち破り、備前西部を勢力下におく松田氏を滅ぼして独立を果たし、天正3年(1575年)には浦上氏を追放して備前と美作の一部を手中にしました。さらに、羽柴秀吉の中国攻めを契機に毛利氏から離れ、備中高松城をめぐる戦いに勝利して、備中の一部をも獲得したのです。

このパンフレットでは、岡山県古代吉備文化財センターが実施中の中世城館跡総合調査や、これまでに行なわれた発掘調査の成果をもとに、宇喜多氏、松田氏、毛利氏を軸として備前国西部で繰り広げられた合戦に関わる城館跡を、選りすぐって紹介します。この冊子がふるさとに残る城館跡の魅力を再発見する契機になれば、幸いです。

# 備前国の中世城館を訪ねる(西部編)

● : 今回紹介する城館跡  
 ● : その他の城館跡  
 (推定地・伝承地を含む)



- ①明禅寺城跡
- ②亀山城跡(沼城跡)
- ③龍の口城跡
- ④船山城跡
- ⑤中島城跡
- ⑥富山城跡
- ⑦金川城跡(玉松城跡)
- ⑧徳倉城跡
- ⑨虎倉城跡
- ⑩福山城跡
- ⑪白石城跡
- ⑫常山城跡
- ⑬両見山城跡(八浜城跡)
- ⑭麦飯山城跡
- ⑮辛川城跡
- ⑯岡山城跡
- ⑰下津井城跡

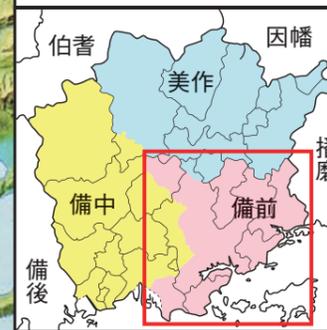
## 備前国の中世城館跡

平成25・26年度の中世城館跡総合調査は、岡山県の南東部にあたる備前地域を中心に行いました。これまでに約350か所の中世城館跡を現地を確認し、その位置や規模、構造などが明らかになってきました。

備前地域の城館跡の多くは、守護大名の赤松氏や山名氏、守護代の浦上氏、備前西部を支配した松田氏、豊臣政権下で五大老をつとめた宇喜多氏らのほか国人と呼ばれる小領主たちが、所領を敵から守り、支配するための拠点として築いたもので、河川や街道に沿った交通の要衝のほか、領地の境界などに位置しています。

## 【備前国】中世城館略年表

時代	西暦	元号	主なできごと
南北朝時代	1352	文和元	南朝方の山名時氏が備前・備中・美作に侵攻する。
	1365	貞治4	このころから、播磨守護赤松則祐が備前守護を兼ねる。
	1367	貞治6	このころ、浦上行景が赤松氏の守護代として備前に進出する。
	1427	応永35	赤松満祐が播磨・備前・美作守護になる。
室町時代	1441	嘉吉元	將軍足利義教を殺害した赤松満祐が幕府の討伐により滅亡(嘉吉の乱)。山名教之が備前守護、山名教清が美作守護になる。
	1467	応仁元	応仁の乱勃発。赤松政則が福岡城を攻撃、山名氏から備前を奪還し、備前・美作守護に復する。
	1484	文明16	守護代浦上基景・則国がたてこもる福岡城を松田元成が備後守護山名氏とともに攻め落とす。山名氏が美作・備前・播磨を制圧する。
	1485	文明17	山名政豊が赤松政則勢と福岡・土師河原・砥石城で戦う。
	1488	長享2	赤松政則が播磨・備前・美作守護に復する。
	1496	明応5	赤松政則が病死し、赤松家中が分裂する。
	1519	永正16	赤松義村が浦上村宗を三石城に包囲するが、撃退される。
	1536	天文5	尼子氏が美作・備前・播磨へ侵攻する。
	1552	天文21	尼子晴久が因幡・伯耆・出雲・隠岐・備前・備中・美作・備後の守護となる。
	戦国時代	1554	天文23
1559		永禄2	浦上宗景が亀山城主中山信正を宇喜多直家に誘殺させる。
1561		永禄4	このころ、宇喜多直家が福所元常を討ち、龍の口城を奪う。
1567		永禄10	宇喜多直家が明禅寺合戦で三村元親ら備中勢を破る。
1568		永禄11	宇喜多直家が金川城を攻略し、松田氏を滅ぼす。
1570		永禄13	このころ、宇喜多直家が岡山城を本拠に定める。
安土桃山時代	1573	天正元	浦上宗景が織田信長から備前・美作・播磨の支配権を安堵される。
	1575	天正3	宇喜多直家が天神山城を攻略し、浦上宗景を追放する。毛利輝元が常山城の上野隆徳を討ち、三村一族を滅ぼす。
	1577	天正5	羽柴秀吉が中国征討のため播磨へ出陣する。
	1579	天正7	宇喜多直家が毛利氏と断交し、織田信長に属する。
	1580	天正8	毛利・宇喜多両軍が備前辛川をはじめ、備前・美作各地で交戦する。
	1581	天正9	このころ、宇喜多直家が死去。
	1582	天正10	宇喜多元家が毛利勢と八浜で合戦し、討ち死にする。羽柴秀吉が備中高松城を水攻めし、毛利勢と講和を結ぶ。羽柴秀吉が織田信長を殺害した明智光秀を討つ。
	1585	天正13	羽柴秀吉が毛利・宇喜多氏の領国境界を定める。
	1590	天正18	宇喜多秀家が岡山城を改築する。
	1600	慶長5	関ヶ原戦に敗れた宇喜多氏が改易される。
1601	慶長6	小早川秀秋が岡山に入城。外堀をつくり、金川城、常山城、虎倉城以外の領内の城を破却する。	



# 明禪寺合戦と主な城館跡

明禪寺合戦とは、永禄10年(1567年)、備中を勢力下においた備中松山城主三村元親が、父家親を暗殺した宇喜多直家を討つために備前に侵攻し、明禪寺城をめぐる激突した戦いです。2万の備中勢を誘い込んだ5千の備前勢が、地の利を活かしてこれを撃破したもので、岡山における東西分け目の合戦となりました。

この後、三村氏は急速に力を失い、宇喜多氏は亀山城から岡山城へと進出します。



明禪寺合戦関連図 (岡山市北区辛川市場～東区沼周辺)



## ■備前国の「関ヶ原」合戦

みょうぜん じ じょうあと

### ①明禪寺城跡

【岡山市中区沢田・原尾島4丁目】

操山山塊から北へ延びる尾根上に築かれた山城で、わずかに堀切や切岸が認められます。「備前軍記」には、永禄10年(1567年)、宇喜多直家が備中の三村元親の備前侵攻を迎え撃って勝利した、いわゆる「明禪寺崩れ」の舞台として描かれています。この後、三村氏が備前国に対する影響力を失う一方、直家は居城を岡山城へ移し、浦上氏からの独立を強めます。



主郭中央付近

## ■岡山平野を一望する須々木氏の城

ふな やまじょうあと

### ④船山城跡

【岡山市北区原】

笠井山から旭川西岸に突き出た丘陵上に築かれた平丘城です。頂部に土塁を伴う曲輪、斜面に帯曲輪や腰曲輪を設け、北側は堀切、南側は豎堀を配して守りを固めています。築城時期は不明ですが、天文・永禄年間には須々木氏が在城していたようです。須々木氏はこの地の小領主で松田氏や三村氏に従っていましたが、永禄10年(1567年)、明禪寺合戦に勝利した宇喜多氏によって城と領地を奪われました。



船山城跡からの眺望

## ■宇喜多直家、飛躍の城

かめ やまじょうあと ぬまじょうあと

市史跡

### ②亀山城跡 (沼城跡)

【岡山市東区沼】

砂川の後背湿地に孤立する標高30mの弁天山とその西に連なる丘陵に築かれた山城です。弁天山には本丸と二の丸、西の丘陵には西の丸を構え、その周囲を高い切岸を伴う帯曲輪や腰曲輪で幾重にも囲んでいます。永禄2年(1559年)、宇喜多直家は義父の中山信正を討ってこの城を手中にしたと伝えられます。



本丸下段平坦面

## ■東西勢力のはざまにある中島氏の城

なか しまじょうあと

### ⑤中島城跡

【岡山市中区中島】

旭川東岸の沖積平野に築かれた一辺50mの平地城館です。明禪寺合戦に際して、三村方から宇喜多方へ寝返った中島大炊の居城と伝えられます。城館内で見つかった建物群には3時期の変遷が認められ、城館の周辺でも複数の建物が見つかっています。このほか、周囲の堀からは備前焼や鎧の一部などが出土しました。



堀で囲まれた館の内部

## ■旭川下流地域の指導者、穉所氏の城

たつ の くちじょうあと

### ③龍の口城跡

【岡山市中区祇園】

旭川の東岸平野を南に見下ろす龍の口山塊に築かれた山城です。龍之口八幡宮が建つ主郭の東側には土塁で囲む長曲輪が造られています。ここから東に延びる尾根筋には深さ約5mの堀切が設けられ、それを挟んで数段の小曲輪が認められます。明禪寺合戦に先立って、宇喜多直家は穉所元常を謀殺してこの城を落とし、備前西部攻略の足掛かりとしました。



龍の口城跡遠景

## ■松田氏が築いた最初の拠点

とみ やまじょうあと

### ⑥富山城跡

【岡山市北区矢坂本町・矢坂東町】

矢坂山の頂ぎに築かれた連郭式山城です。五つの曲輪には土塁や石垣を築き、堀切を配して守りを固めています。発掘調査によって陶磁器や瓦、釘、刀、銅銭などとともに、炭化した麦が大量に出土しました。松田氏の居城として築かれ、金川城築城後も重要な支城として維持されましたが、永禄11年(1568年)、宇喜多氏に攻略されました。かつて岡山城西の丸にあった石山門は、この城の大手門を移築したと伝えられます。



本丸虎口

岡山市北区御津金川周辺 松田氏 × 宇喜多・伊賀氏

かながわ

## 金川城合戦と主な城館跡

永禄11年(1568年)、宇喜多直家は、備前西部を支配してきた松田氏の拠る金川城攻略を画策します。直家は、松田氏を支える宇垣氏を打ち取った後、虎倉城主伊賀氏を語らって金川城を落とし、松田氏を滅ぼしました。これにより、直家の威勢は備前に及び、浦上氏との対立が激化していきます。



岡山市北区御津虎倉～吉備中央町周辺 伊賀氏 × 毛利氏

こくら

## 虎倉合戦と主な城館跡

虎倉城主の伊賀氏は、松田氏が滅んだ後は宇喜多氏に属して備前北西部を支配していました。

天正8年(1580年)、辛川崩れで宇喜多勢に敗れた毛利氏は、再度の備前侵攻を図るため、伊賀氏の支城である福山城を攻略した後に、本城の虎倉城へ攻め寄せます。これを迎え撃った伊賀氏は、下加茂(吉備中央町)で毛利勢を強襲し、敗走させました。

### ■備前西部を支配した松田氏の居城

かながわじょうあと たままつじょうあと

市史跡

#### ⑦金川城跡(玉松城跡)【岡山市北区御津金川】

旭川と宇甘川の合流点にそびえる臥龍山上に築かれた備前最大級の連郭式山城です。尾根筋に本丸、二の丸、北の丸、道林寺丸といった曲輪を構え、堀切や畝状堅堀群で守りを固めていますが、特に食い違いの二重虎口を設けた枡形はこの城の見どころです。宇喜多氏が入城した後も重要な支城として維持されたようですが、慶長20年(1615年)の一国一城令により破却されたようで、現在も石垣を崩した石材が散在しています。



枡形の食い違い二重虎口

### ■毛利氏を退けた伊賀氏の居城

こくらじょうあと

#### ⑨虎倉城跡

【岡山市北区御津虎倉】

宇甘川沿いにそびえる標高320mの険阻な山上に築かれた連郭式山城で、備前でも有数の規模を誇ります。山頂の周辺に本丸、二の丸、三の丸を構え、派生する尾根に大小の曲輪を連ねた敷重な縄張りとなっています。正確な年代は不明ですが、天文～天正初年に備前国北西部で大きな勢力をもっていた伊賀久隆の居城となりました。伊賀氏が退去した後は宇喜多氏の支城とされ、慶長年間までは存続していたと考えられています。



虎倉城跡遠景

### ■松田氏の支城の一つ

とくらじょうあと

県史跡

#### ⑧徳倉城跡【岡山市北区御津河内】

標高230mの山頂から二方に延びる尾根上に曲輪や堀切を配した連郭式山城で、主郭の虎口には堅固な石垣が築かれており、瓦も広く散布しています。「太平記」に名前が見えるものの不明な点が多く、その後、松田氏や宇喜多氏の重要な支城として機能したようですが、小早川～池田氏の時に廃城となりました。



虎口付近の高石垣

### ■虎倉城の前衛

ふくやまじょうあと

#### ⑩福山城跡

【吉備中央町加茂市場】

全長430mに及び連郭式山城で、金川と高梁を結ぶ街道を北に見下ろす標高360mの山頂に築かれています。二つの峰とそこから派生した尾根を堀切で区画して曲輪群を配しており、斜面には畝状堅堀群を設けて守りを固めています。

天正8年(1580年)の虎倉合戦に際して竹ノ荘(吉備中央町)に進出した毛利氏に攻められ、落城したと伝えられます。



主郭

### ■水陸交通の要地に築かれた城

しらいしじょうあと

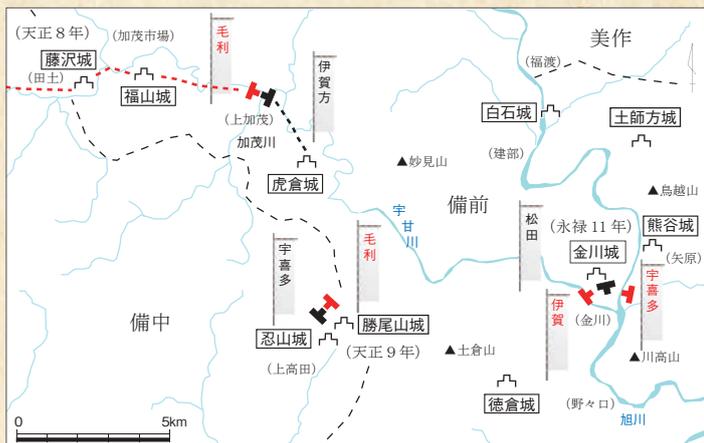
#### ⑪白石城跡

【岡山市北区建部町大田】

建部の街並みを西に見下ろす標高140mの山頂に築かれた連郭式山城で、旭川と吉井川を結ぶ街道に接しています。主郭のある山頂から派生する二つの尾根に曲輪を配置しており、大規模な土塁や堀切のほか、主郭北側の急峻な斜面に畝状堅堀群を設けるなど、堅固な防御が目立ちます。旭川中流域の要地を押さえる拠点として、赤松氏や松田氏、宇喜多氏の支城となりました。



白石城跡遠景



金川・虎倉合戦関連図(岡山市北区御津金川～吉備中央町土田周辺)

## 玉野市～岡山市北区西辛川

つね やま から かわ はち はま

# 常山～辛川～八浜合戦と主な城館跡

①三村氏 × 毛利氏

②宇喜多氏 × 毛利氏 (小早川氏)

③宇喜多氏 × 毛利氏

①天正3年(1575年)の常山合戦は、毛利氏が織田方に与した三村氏を滅ぼした備中兵乱の最後となる戦いで、常山城主の上野隆徳(三村元親の義弟)は毛利氏に敗れて自刃しました。

②天正8年(1580年)の辛川合戦は、毛利氏から離反した宇喜多勢が、小早川隆景(毛利元就の三男)の侵攻を辛川口(岡山市北区)で阻止した戦いです。

③天正10年(1582年)の八浜合戦は、児島に進出した穂田元清(毛利元就の四男)と、これを阻止しようとした宇喜多元家(直家の甥)が大崎(玉野市)で衝突したもので、元家は戦死しました。

## ■女軍の哀話が伝わる城

つね やまじょう あと

市史跡

### ⑫常山城跡

【玉野市宇藤木ほか、岡山市南区迫川】

児島湾に面する標高307mの常山山頂に築かれた連郭式の山城で、遠く岡山平野を望むことができます。本丸が設けられた山頂から二方へ派生した尾根に、青木丸、柵尾丸、矢竹の丸、惣門丸といった曲輪を配しており、一部に石垣が見られます。天正3年(1575年)の落城に際して、女性たちの奮戦が伝えられます。



本丸の石垣



縄張り



八浜合戦関連図(玉野市、岡山市南区、倉敷市)

## ■八浜合戦の宇喜多方陣地

ふた ご やまじょう あと

はち はまじょう あと

【玉野市八浜町八浜】

### ⑬両児山城跡(八浜城跡)

八浜の港を見下ろす標高53mの丘陵上に築かれた山城で、南と北の峰に曲輪や横堀、敵状縦堀を巧みに配置して守りを固めています。天正10年(1582年)の八浜合戦では、宇喜多忠家、元家が布陣し、麦飯山城に拠る毛利方と対峙しました。



大規模な横堀



怒塚城から常山・八浜合戦の舞台を望む

## ■八浜合戦の毛利方陣地

むぎ い やまじょう あと

### ⑭麦飯山城跡

【玉野市槌ヶ原・八浜町大崎】

常山城跡の東2.3kmにある標高232mの山上に築かれた連郭式山城で、東西に並ぶ二つの峰の間に複数の曲輪を配し、その両端を堀切で遮断しています。天正10年(1582年)には毛利方の穂田元清が布陣し、両児山城に籠る宇喜多勢との間で激しい戦いを繰り広げました。



岩盤を掘りぬいた堀切

## ■辛川合戦の砦跡か

から かわじょう あと

### ⑮辛川城跡

【岡山市北区西辛川】

吉備津彦神社の北に面する低丘陵に築かれた単郭式の山城です。土塁で囲んだ曲輪は各所に自然地形をとどめていますが、罌線の折れや横矢に加え、複雑な虎口が設けられるなど、巧みな造りとなっています。西を除く三方に堀切を設けて遮断しており、城の規模は100mほどの大きさです。浦上・宇喜多氏に仕えた虫明氏の居城と伝えられますが、天正8年(1580年)の辛川合戦に際して築かれた砦とする説もあります。



辛川城跡遠景

## 中世城館跡を掘る！

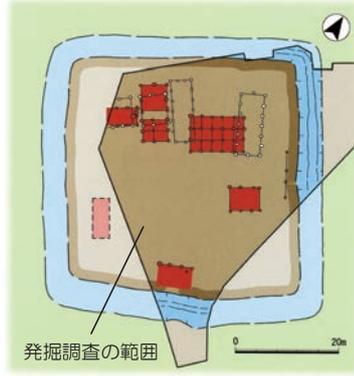
なかしまじょうあと

### 中島城跡 【岡山市中区中島】

岡山市中区中島と中井を結ぶ都市計画道路の建設に先立ち、平成16～22年にかけて発掘調査を実施しました。中島に城館があったことは、永禄10年（1567年）の明禅寺合戦を記した「備前軍記」に見えますが、その所在についてはこれまで明確ではありませんでした。

この調査で、「大炊」「屋敷添」の小字が残る地点を発掘したところ、「大炊」では複数の建物跡が、「屋敷添」では幅7～10mの堀跡が見つかりました。堀跡からは16世紀後半の備前焼や鎧の一部が出土しており、周りを堀で囲まれた一辺50mのこの屋敷地が中島城跡と思われます。

旭川の自然堤防にあたるこの場所は、たびたび洪水に見舞われたようで、下層では砂礫に埋もれた鎌倉時代の集落跡も見つっています。こうした危険がありながら、この地に城館が営まれたのは、旭川を要害に見立てるとともにその水運を重視したからなのかもしれません。



中島城跡推定平面図



堀跡から見つかった鎧片

## 備前国の近世城郭

### ■備前支配のシンボル

おかやまじょうあと

国史跡

### ①6 岡山城跡

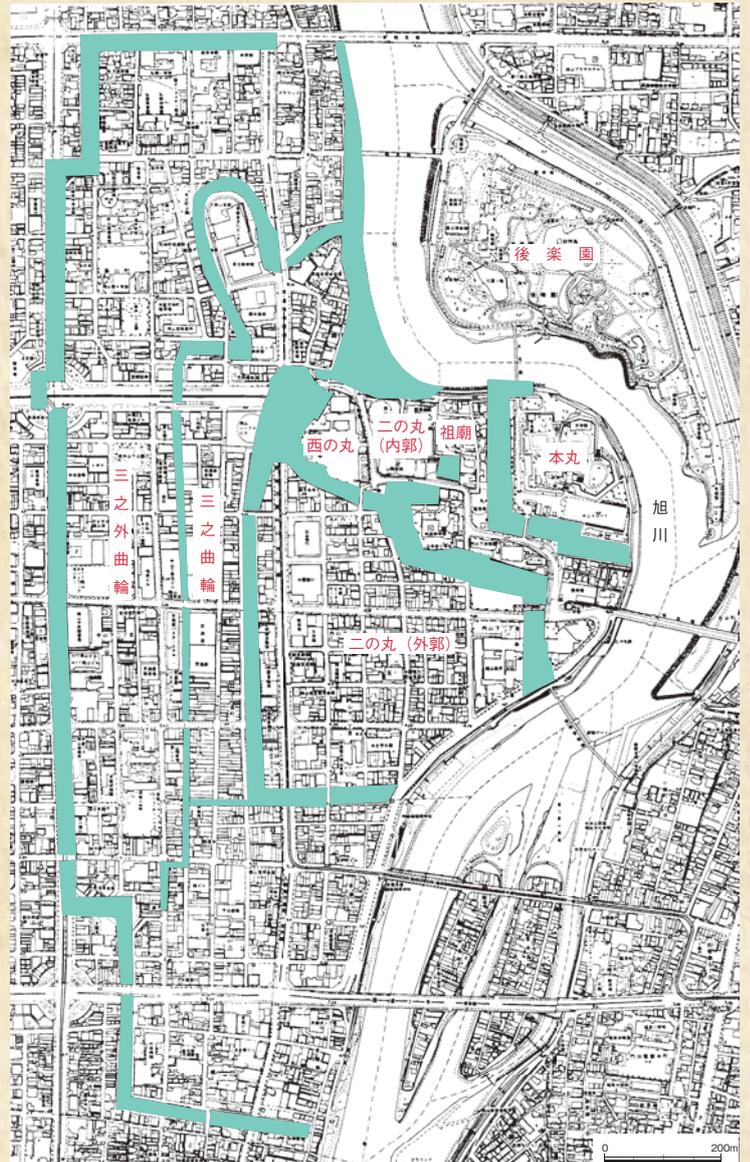
【岡山市北区丸の内ほか】

岡山平野の中央に位置する三つの小丘陵を中心として築かれた近世城郭で、その規模は南北3.5km、東西1.3kmにも及んでいます。旭川の西岸に突き出た本丸から西に向かって二の丸、三の曲輪、三の外曲輪を配した梯郭式の縄張りです。石垣が築かれた曲輪は、それぞれ内堀、中堀、外堀で区切られており、近年、豊臣期大坂城との類似が指摘されています。

天正元年（1573年）、宇喜多直家は金光宗高の居城であった石山の城に入り、秀家の時に本丸を岡山に移して五層六階の天守を建設、織豊城郭として整備しました。関ヶ原戦後、岡山城に入った小早川氏は外堀を掘削、さらにその後を襲った池田氏が西の丸や城下町を整備して、近世城郭を完成させました。



岡山城跡遠景



岡山城跡の周辺図

(岡山県教育委員会『岡山城二の丸跡』2003をもとに作成)

### ■港を見下ろす近世城郭

しもついでじょうあと

県史跡

### ①7 下津井城跡

【倉敷市下津井】

下津井港の背後に横たわる標高88mの城山山頂に築かれた連郭式山城で、全長は650mにも及びます。本丸の東西に二の丸、三の丸、出丸を配し、石垣が築かれた曲輪の建物には瓦が葺かれていたようです。宇喜多秀家が改修した後、池田氏の時に近世城郭として整備されましたが、寛永16年（1639年）に廃されました。



下津井城跡遠景

## 岡山県中世城館跡総合調査の概要

岡山県古代吉備文化財センターでは、歴史文化遺産として注目を集めている中世城館跡の保護と活用の基礎資料を得ることを目的として、平成25年度から7か年計画で総合調査に取り組んでいます。

この事業では、現地調査、文献調査、城館関連地名調査などを行い、これらの成果をまとめた報告書を作成するほか、城館跡に関わる情報の発信や城館跡を活用したイベントなどを行っています。

### ◆現地調査

現地で城館跡の位置を確認し、その規模、曲輪、堀切などの構造や遺存状況を調べるとともに、GNSS（汎地球測位システム）や簡易距離計を利用して縄張り図を作成しています。

### ◆文献調査

中世文書や江戸時代以降に著された地誌などから城館に関わる記述を収集しています。また、城館にかかわる古絵図も調べています。

### ◆城館関連地名調査

城館にかかわる地名を収集するとともに、地籍図などを利用して、城館との関連を検討しています。



### ◆普及啓発

調査成果については、報告会や講座、ホームページ、パンフレットなどにより情報発信しています。また、中世城館跡に登城し、文化財と触れ合うイベント「いざ出陣！山城探検隊」を開催しています。

### ◆報告書作成

各調査の成果をもとに、城館跡の地図、解説、縄張り図、写真、文献、関連地名表などをまとめた報告書を作成し、最終年度に刊行します。



現地調査



城館関連地名調査



報告書作成



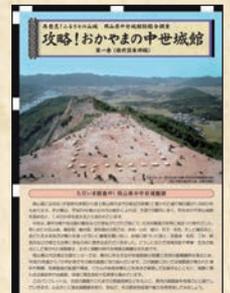
講座



いざ出陣！山城探検隊



ホームページ



パンフレットの刊行

【発行日】平成28年1月

【発行・編集】岡山県古代吉備文化財センター  
〒701-0136 岡山県岡山市北区西花尻1325-3  
電話 086-293-3211 FAX086-293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

※ホームページで岡山県中世城館跡総合調査の様子を公開中！

#### ※注意事項

- ・城館跡の多くは個人の所有地で、立ち入りが制限されているところがあります。見学の際は、マナーを守って行動しましょう。
- ・見学するときは、野外活動に適した服装を心がけ、十分に注意しましょう。
- ・危険な動植物などに気を付けましょう。
- ・自分の居場所を確認するため、方位磁石、地図やGPSなどの活用をおすすめします。
- ・城館跡は貴重な文化財です。大切にしましょう。